



ウォーク・ウィズ・ジーザス 中山道を行く



杉本 常雄 (日本基督教団 淀川教会牧師)



筆者は後列の左端

●**宣教師の志にならって**
昨年のウォーク・ウィズ・ジーザス(WWJ) 東海道に続き、今年も中山道にチャレンジしました。「神は愛なり」の旗を掲げ、小学生から81歳の高齢者まで、各世代の人々がイエスさまと共に歩きました。

東海道が街中を駆け抜ける旅とするなら、今回は山中を巡り、幾つもの峠を越えて行く旅でした。昨年同様、わたしたちは旧街道にこだわりました。かつて宣教師がその道を歩いて伝道したからです。キリスト教禁制の高札が掲げられている中、彼らは命懸けで伝道しました。「日本に福音を、日本人に救いの喜びを」との熱い志があったのです。そんなスピリットに学びたかったのです。

●**過酷で楽しい旅**

2週間の旅を終え、痛む腰や膝悲鳴をあげている下肢をさすりながら、今、旅の歩みを思い起こしています。それは過酷で楽しい旅でした。

日本橋から松井田までは、平坦な道が続くものの、酷暑を引きずるような暑さと、季節外れの台風の中を歩きました。

松井田から、俄然状況は変化し、連日の降雨。秋雨の降りしきる肌寒い中を、碓氷・笠取・和田・塩尻と峠越えの連続。足元はぬかるみ、急勾配と雑草茂る山中の歩行は、一歩間違えば谷底へ落下の危険さえありましたが、イエスさまと共に歩ける楽しさは格別でした。

●**主の勝利にあずかる戦い**

各地の教会に温かく受け入れていただき感謝です。諸教会には、地域に暮らす人々を強く縛り付けている古い異教的習俗や習慣との戦いがありました。神社を中心に、町を取り囲むように張り巡らされたしめ縄、各所に林立する宗教的幟(ぼし)の家の門柱を飾る魔除け札、そして町の入り口や道路沿いに立つ仏像の数々……。伝道

の働きの困難さを思います。しかし、諸教会が主の権威によつて戦っていること、その戦いは主に覚えられていること、そして何よりも主の勝利にあずかる戦いであることを学びました。



●**祈る旅、祈られる旅**

各地でトラクトを配布。峠を登り、辿り着いた集落では、廃屋が軒を連ねていました。屋根が傾き、戸にこびり付いた埃は、数年間閉めのない証拠。僅かに感じた人気(ひとけ)を頼りに、トラクトを投函していききました。

前方に人の姿が見えれば、駆けて行き、トラクトを手渡します。拒む人、受け取る人と様々です。福音に對して頑なな心が砕かれるよう、主がその人を捉えて教会へ向かわせてくださるよう祈りました。教会が無い所では、働き人が起こされ、教会が生まれるようにと祈りました。

また、訪ねた諸教会の兄弟姉妹方が、私たち一行の旅を覚えて祈ってくださいました。教団教派を超えて、一つなる神の教会の家族であることを知りました。このように、どんな時にも祈りが生まれます。WWJは祈りの旅でした。

●**愚直になつて主に従う**

それにしても何と悠長な働きであることか。新幹線なら数時間で行ける所を、何日もかけて歩くのですか

ら。

世の中のあらゆる分野で効率が叫ばれ、すぐにも見える成果が求められます。その影響か、教会の伝道さえも性急に働きの成果を求めがちです。

WWJの働きは、最も効率の悪い働きに見えます。山道を、鬱蒼と茂る木々を掻き分けて行く先は、教会など知らない人々、福音を聞いた事のない人々が暮らす過疎の村々……。そこへ出掛けていくことは、徒勞とさえ思えるほどです。だからこそ愚直とも思える程に、イエスさまに拠り頼むのです。伝道は主の働きであり、その主に期待して、わたしたちは働き続けるのです。

●**主はあなたを招かれる**

福音を届けることなしに、どうして人は主と出会えるでしょう。神の国の働き人が不足しています。主は働き人として、あなたを招いておられます。あなたも過酷で楽しい、WWJの旅に出掛けませんか。

(費川から京都への後半の道程は、2011年秋に実施の予定です)



<http://www.walkwithjesus.jp/>